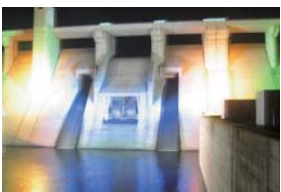


ハイツカの
ひまから
これから
こころのこころ

ハイツカ湖地域ビジョン



笑湖(エコ)ハイツカ

人と自然が元気で笑顔があふれる湖域づくり



“笑湖(エコ)ハイツカ”

住む人・訪れる人が共に笑顔になって、
自然があふれるハイツカ湖地域になることを目指します。
いまこそ、逆境を超え、次世代に誇れるふるさとを創生する。
ここに私たちの行動計画を記します。

平成21年9月 ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会

目 次

1. はじめに	1
(1)ハイヅカ湖地域ビジョンとは？	
(2)ハイヅカ湖地域ビジョン第1版の策定の経緯	
2. ハイヅカ湖地域の現状	3
(1)豊かな自然環境	
(2)時代を先取りするハイヅカ湖地域	
(3)恵まれた立地条件と周辺施設	
(4)ハイヅカ湖地域の暮らし	
(5)灰塚ダム・ハイヅカ湖	
3. ハイヅカ湖地域ビジョンの基本方針	4
4. ハイヅカ湖地域ビジョンの推進体制	5
5. ハイヅカ湖地域ビジョンの実施内容	6
(1)実施方針	6
(2)取り組みメニュー一覧	7
(3)取り組みメニューの実施手法(リーディングプロジェクトとして実施している取り組み)	9
(4)各取り組みメニューの実施手法(リーディングプロジェクト以外の取り組み)	16
(5)実施スケジュール	22
(6)レビュー・モニタリング計画	24

1.はじめに

(1)ハイヅカ湖地域ビジョンとは？

中国地方のほぼ真ん中に位置するハイヅカ湖地域は、豊かな自然環境のもと人々が堂々と積み重ねてきた暮らしにより、歴史、民俗、文化、人材に恵まれた地域が形成されてきました。

全国的に地域格差、中山間地域の過疎化・少子高齢化が進展する一方で、心の豊かさ、心の充実を実感できるいきいきとした暮らしなどを求めて地域への期待も高まっています。

そんな中、灰塚ダム建設により洪水や渇水に対する安全・安心が高まるとともに、広大な水面を有するハイヅカ湖が生まれました。今、ハイヅカ湖地域の生き活きとした未来に向けて、将来へのロマンを描き、柔軟で幅広い力の集結が必要となっています。

ハイヅカ湖地域ビジョンは、地域の重要な資源の一つである灰塚ダム・ハイヅカ湖を中心に「灰塚ダムによって生まれた資源を活かした「笑湖(エコ)ハイヅカ～人と自然が元気で笑顔があふれる湖域づくり～」を目指し、ハイヅカ湖地域の自立的・持続的な活性化を図り、今後の中山間地域をリードすべく、ハイヅカ湖地域の住民、行政、広域的な有志等、多様な人々がそれぞれの機能を活かして参画し、自主・自律したパートナーとして相互に連携・協力しながら、実行・実現を図ることを目的としています。

このような目的のもと、多様な主体の参画による委員会、分科会などで議論を重ねてきました。ハイヅカ湖地域の各自治振興区の代表者によるハイヅカ湖地域連絡協議会においても、ハイヅカ湖地域への思いや今後の取り組みについて話し合いが行われ、灰塚ダム建設で創出された「ハイヅカ湖」と、それに伴い整備された資源を活かして、地域活性化につながるビジョンづくりの一翼を担う旨の提言がなされました。また、議論のみならず、具体的にいくつかのリーディングプロジェクトが推進されました。本ビジョンは、上記の目的ならびに様々な議論や具体的な活動の結果を踏まえてとりまとめた行動計画です。



上空から見たハイヅカ湖(H18. 4)

(2)ハイヅカ湖地域ビジョン第1版の策定の経緯

平成19年11月～平成21年3月までの約1年半に渡って、ハイヅカ湖周辺の住民のみならず、取り組みに関心のある方々、学識者、三次市・庄原市、ダム管理者など、多様な主体の参画のもと、ハイヅカ湖地域ビジョン準備会・委員会・分科会が開催されました。

さまざまな意見やアイデアを出し合い、協議を重ね、また、リーディング（試行的・先行的）プロジェクトを企画・実行する過程を経て、ハイヅカ湖地域の地域活性化に向けた中長期的な方向性や取り組みを段階的に決定しました。

年月日	事柄	概要
H19.11.29	灰塚ダム水源地域ビジョン準備会	灰塚ダム水源地域ビジョンの進め方について、地域有志の方々による意見交換を実施。
H19.12.19	第1回ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会	「ハイヅカ湖地域ビジョン」の名称及び趣意書を決定。また分科会のテーマ設定について承認。
H20.1.28.31	第1回ハイヅカ湖地域ビジョン分科会	6つのテーマによる分科会を開催。地域の魅力や課題、将来像等について意見交換を実施。
H20.2.13	第2回ハイヅカ湖地域ビジョン分科会	合同で分科会を開催。第1回分科会を踏まえ、分科会の目標や取り組みについて意見交換を実施。
H20.2.29	第2回ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会	分科会での意見交換を基本として基本方針案について協議。事務局にて修正後、公表することを承認。
H20.3	基本方針（試行版）公表	ハイヅカ湖地域ビジョン基本方針（試行版）を公表。パブリックコメントを実施。
H20.6.27	第3回ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会	パブリックコメントやH20年度の取り組み及びスケジュールについて協議。
H20.7.8	第3回ハイヅカ湖地域ビジョン分科会	合同で分科会を開催。各分科会のテーマに沿ってH20年度のLPの企画について意見交換を実施。
H20.11.25	第4回ハイヅカ湖地域ビジョン分科会	合同で分科会を開催。H20年度取り組みの振り返り、各分科会の活動メニュー等について意見交換を実施。
H21.2.10	第5回ハイヅカ湖地域ビジョン分科会	これまでの取り組みの振り返り、ビジョン第1版(原案)についての意見交換を実施。ハイヅカ湖地域連絡協議会からの提言を紹介。
H21.2.22	第4回ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会	分科会での意見交換を基本としてビジョン第1版について協議。事務局にて修正後、公表することを承認。
H21.3	ハイヅカ湖地域ビジョン第1版(案)公表	ハイヅカ湖地域ビジョン第1版(案)を公表。パブリックコメントを実施後、第1版を策定予定。



第1回分科会



第2回分科会



第3回分科会

2. ハイヅカ湖地域の現状

(1) 豊かな自然環境

広島県の北東部に位置するハイヅカ湖地域は、カタクリやセツブンソウなどの山野草の宝庫であり、動物では、近年個体数が激減しているダルマガエルやブッポウソウなども含め、地元住民の方による保護・生育活動も盛んに行われています。また、人工湿地としては日本最大規模（約70ha）である知和ウェットランドも新たな水辺環境を創出し、平成17年に国特別天然記念物のコウノトリが飛来したことで有名になりました。

(2) 時代を先取りするハイヅカ湖地域

三次市の人口は最近25年間で約4,500人（平成17年現在：59,314人）、庄原市は10,000人以上の減少（平成17年現在：43,149人）傾向をたどっています。

また、平成17年の広島県及び全国の年齢階層別人口割合をみると、老年人口の占める割合はともに20%強であるのに対し、三次市は約30%、庄原市は約36%に上ります。

ハイヅカ湖地域は、人口減少の加速化が全国よりも10～15年早く進んでいると言われていいます。このような状況下で、地域の方々が主体となって、ハイヅカ湖を活用したウォーキング大会など、活性化に向けた行事・催しなどが取り組まれています。

（※すべて合併後の新市で換算）

(3) 恵まれた立地条件と周辺施設

三次市、庄原市周辺では古くから人々の暮らしが営まれており、多くの遺跡や古墳が現存します。また、花園、果物農園のほか、備北丘陵公園、奥田元宋・小由女美術館などの観光資源があります。

さらに、ハイヅカ湖地域には「ハイヅカ湖畔の森」や「田総の里スポーツ公園」をはじめとする様々な施設があり、平成19年度の利用者数は約20,000人で、昨年度に比べやや増加傾向にあります。

(4) ハイヅカ湖地域の暮らし

ハイヅカ湖地域の各自治会では、各地の特色に応じて、カタクリ祭り、節分草祭り、ホタル祭り、夏祭り、秋祭りやパークゴルフ・グラウンドゴルフ大会など、地域の方々が自らの地域を楽しむ姿が見られます。

(5) 灰塚ダム・ハイヅカ湖

灰塚ダムの主な役割は、ダム下流の人々の命・財産を洪水から守ること、三次市と庄原市にそれぞれ日量10,000トン、5,000トンの水道水・農業用水を供給することのほか、下流の河川水が不足する場合に環境用水を放流し、ダム下流の環境を改善する機能も備えています。

また、ハイヅカ湖地域には、知和ウェットランド、なかづくに公園などの自然を活かした施設があり、四季折々の花を見学できる場所も点在します。さらに、湖畔では釣りやキャンプを楽しむ人が増加しています。

3. ハイヅカ湖地域ビジョンの基本方針

ハイヅカ湖地域ビジョンの基本方針は、「ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会」及び「ハイヅカ湖地域ビジョン分科会」での意見交換やアイデアを基に作成したものです。

ハイヅカ湖地域ビジョン基本方針

「笑湖ハイヅカ」
～人と自然が元気で笑顔があふれる湖域づくり～

(1) なごみのふるさとと美しいダムづくり

ハイヅカ湖地域の人々が楽しく誇りを持って暮らすとともに、訪れる人々を歓迎しつつ、ハイヅカ湖地域を自慢できるようにします。また、ハイヅカ湖周辺の環境や施設等を活用した健康や福祉に取り組み、地域の持続的な維持を推進します。

(2) 笑湖をつなぐネットワークづくり

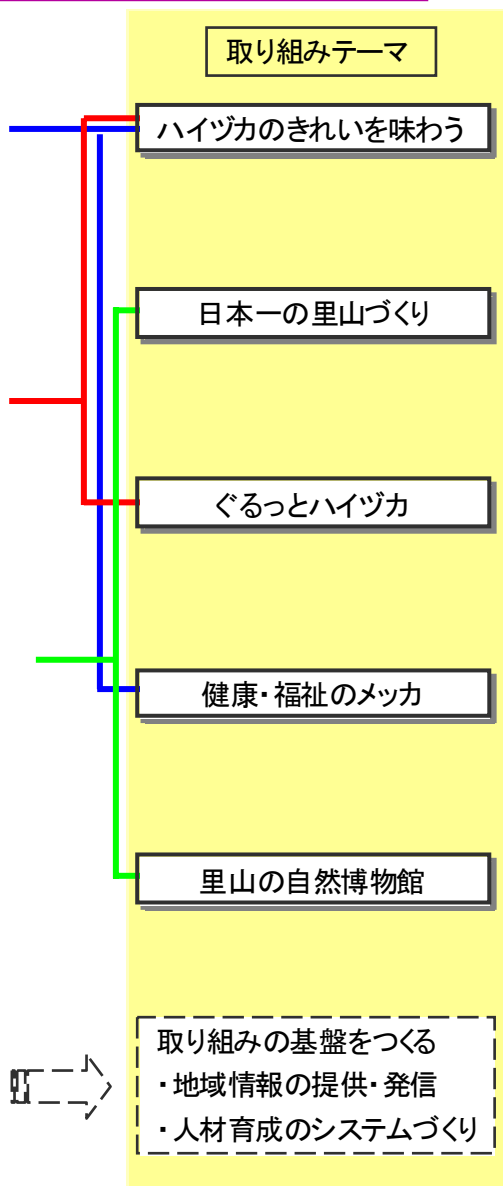
ハイヅカ湖や周辺の里山などの地域資源を最大限に活かすために、素敵な自然や営み、地域の人々や広域的な有志、行政等をつなぐネットワークをつくります。また、江の川流域に加え、中国地方のほぼ中央に位置するハイヅカ湖地域は、他地域との交流を促進します。

(3) 自然との共生を知り、学ぶ笑湖づくり

ハイヅカ湖地域の里山やハイヅカ湖のウェットランド等の環境と循環を守り、地域の自然的魅力を、先ず地域が深く理解し郷土愛を育むとともに、より多くの方々にハイヅカ湖地域から学ぶ機会・活動を提供し、湖域を丸ごと「里山博物館」として活かしていきます。

(4) 情報、人材、経済などが力強く回る、 安定した基盤づくり

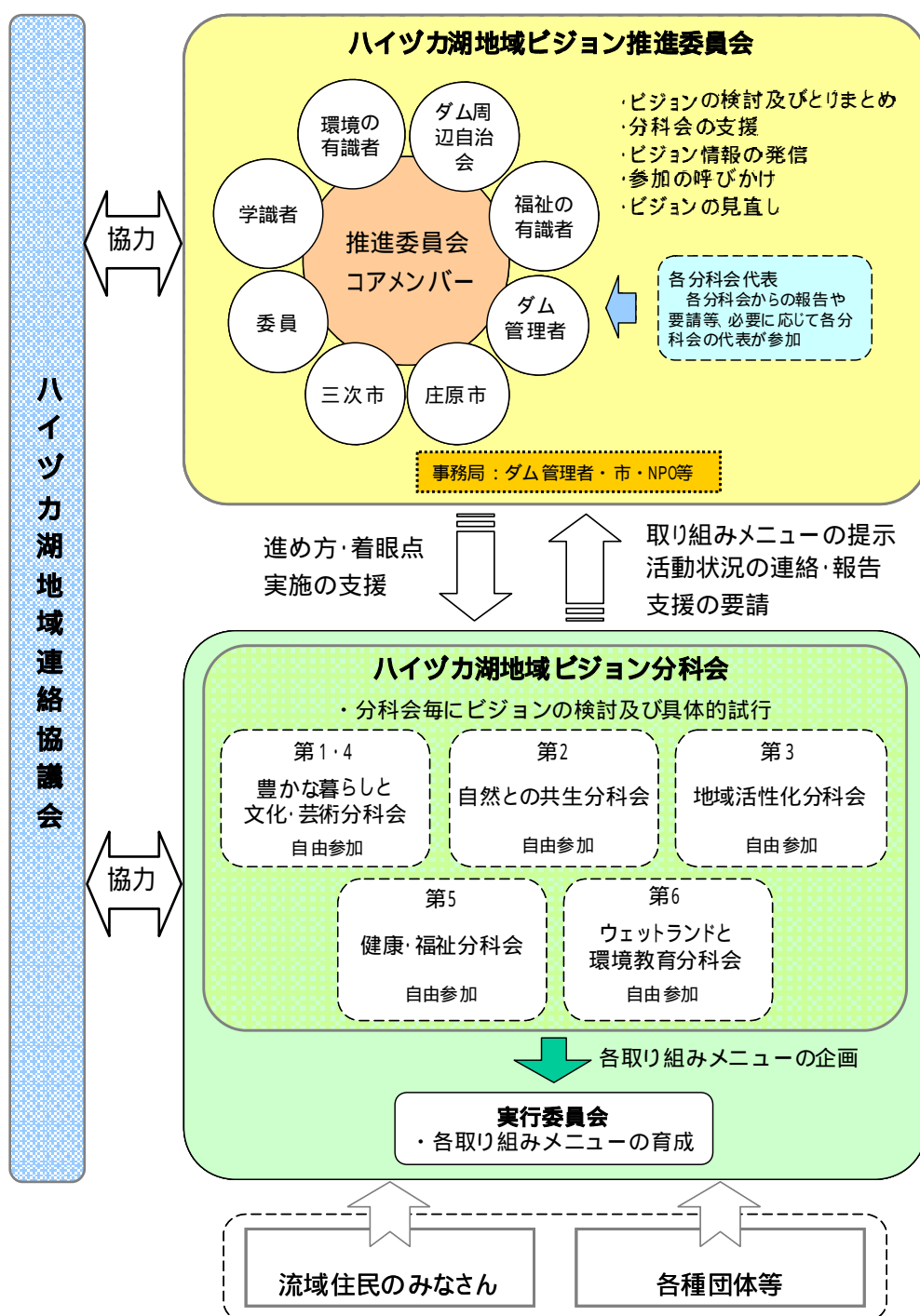
灰塚ダムによりダム下流地域の安全・安心な暮らしを守るとともに、ハイヅカ湖地域の暮らしの活性化に向け、地域情報を提供・発信していきます。また、ハイヅカ湖地域での安定した働き場の拡大に向け、ハイヅカ湖や里山の活用の促進、地域リーダーとなる次世代を含めた人材育成のシステムづくりを行います。さらには各取り組みの相乗効果を高めるため、各取り組みの連携を図ります。



4. ハイヅカ湖地域ビジョンの推進体制

ハイヅカ湖地域ビジョンの取り組みは、参加するみなさんが中心となって進みます。分科会では、ワークショップ形式での意見交換や具体的な活動を行っていきます。“楽しく、なごやかに”をモットーとして、わいわい・がやがやとハイヅカ湖地域の今、これからのことを話し合い、将来に向けた取り組みを行っていきます。

今後は、情報提供や活動支援などを通じ、よりいっそうの連携体制を構築していきます。



5. ハイヅカ湖地域ビジョンの実施内容

(1) 取り組みの実施方針

ハイヅカ湖地域ビジョンは、以下に示す実施方針に基づいて実施していきます。

① 地域の合意形成による実行プロセス

ハイヅカ湖地域ビジョンの取り組みは、各分科会または実行組織を中心として、企画及び実施していきますが、ハイヅカ湖地域の合意は、取り組みの実施に不可欠です。

自治振興区連絡協議会や三次市及び庄原市の支所等の関係機関との連携を図りながら、適切に情報を発信し、地域との合意形成による実行プロセスを基本とします。

② 計画的・段階的な取り組み

ハイヅカ湖地域ビジョンの取り組みは、多様な主体の参画による実施が重要となります。しかし、取り組みを実施することによって、かえって地域が疲弊してしまうようでは、取り組む意味が薄れてしまいます。

そこで、ハイヅカ湖地域ビジョンの取り組みメニューは、まず、地域の実情に応じたものから実施していくものとします。

③ まずは“やりたいこと”、“できること”から

ハイヅカ湖地域ビジョンの取り組みは多岐に渡っています。いずれの取り組みも目的や熱意を持って立案されたものですが、全てを一度に実行することは難しく、また、継続して実施することができなくなってしまう。

よって、取り組みメニューについては、基本的に“すぐにでもやりたいもの”、“できること”から実施していくことが肝要になります。取り組みメニューの実行については、その重要性や緊急性を鑑みながら、地域のニーズやとつきやすさなどの面からも協議した上で、優先順位を設定していきます。

④ スパイラルアップの仕組み

魅力・活力ある地域に発展していくためには、ハイヅカ湖地域ビジョンの取り組みを継続的に実施することが肝要です。その際、その取り組みにはどんな効果があり、どう評価されたのかを把握することが重要です。検証プロセスの中で、課題や改善点を見出し、次の取り組みへとつなげていくことで、持続的な発展が期待できます。

そこで、ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会を、取り組みの検証機関と位置づけ、スパイラルアップの仕組みづくりを行うとともに、各取り組みへのサポートやアドバイスをを行います。

(2) 取り組みメニュー一覧

テーマ	取り組みメニュー	今後の検討メニュー
ハイヅカの きれいを 味わう	<p>①大谷ルネッサンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大谷の昔を楽しめる、学べる環境づくり ・★ガードレール・ペイントなどの地域の特色を活かした芸術活動(アースワーク等) <p>②地元の事(自然・文化・歴史・料理)を知る</p> <p>③日常的なエコ活動の実践</p> <p>④外から人を呼び込むための仕掛けづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・里山の手入れ ・地元大豆の味噌づくり ・兼業の促進 ・安全な農作物づくり ・美味しいものをみんなで食べ教える ・伝統文化に誇りをもつ(神楽、盆踊り等) ・写真・絵はがきコンテストを継続する ・ハイヅカの情報をネットで配信、新聞、TV、ガイド本等でPR ・行政とタイアップして空き家等を利用した住民移住計画の推進
日本一の 里山づくり	<p>①★ハイヅカ湖地域を知り、ビューポイントに名前をつける「探湖会」、魅力を探す「ええと湖探し」の実施</p> <p>②雑草、かずらなどの研究と活用、野の花(山野草)を輝かす</p> <p>③副ダムに堆積する土砂を活用した取り組み</p> <p>④蛭の里づくり</p> <p>⑤「里山の達人」になる・を発掘する・を育てる</p> <p>⑥青空教室を開く</p> <p>⑦何時でも湖水面が見えるようにする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自給自足を売りにした宿泊所を作る ・ハイヅカ湖へバスツアーで都市から来てもらう ・地域の人が株主になり地産地消の場をつくる
ぐるっと ハイヅカ	<p>①★「抱きしめて笑湖(エコ)ハイヅカ」の開催 ⇒地域活性化NPOの設立</p> <p>②★空心菜の特産化に向けた取り組み</p> <p>③こだわりの店や営みのPRと連携、「笑湖アーティスト市」の開催</p> <p>④エコトイレの設置提案、維持管理方法についての話し合いを通じた地域活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スローライフの体験 ・Iターンの促進 ・マツタケ再生・森林保護 ・地域の方が参画できる物産館 ・ハイヅカオリジナルの発信や開発

★ :リーディング(先行的・試行的)プロジェクトとして、分科会の協議を経て位置づけたもの

青色:平成19~20年度で取り組みを実施したもの(引き続き実施する予定)

紫色:取り組みを企画中または実行中のもの

テーマ	取り組みメニュー	今後の検討メニュー
健康・福祉 のメッカ	<ul style="list-style-type: none"> ①★健康・福祉のマップづくり ②パーク&グラウンド・ゴルフ場の利用促進 ③老若男女・万人のための健康スポーツ企画 (季節毎のウォーキング(花、木、紅葉鳥の時期)、マラソン) ④エコトイレの設置提案と維持管理 ⑤レンタサイクルの設置提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュータイプ福祉住宅湖域構想 ・湖面利用(ボート等)の促進 ・運動公園周囲の3S(整理、整頓、掃除) ・電動スクーター教習所、運動療法への活用 ・新スポーツ“草(くさ)レチック”大会の開催 ・つけもの(自然、健康食、ブルーギルずし)レストランの開店 ・矢田地区福祉団地構想の継続検討
里山の 自然博物館	<ul style="list-style-type: none"> ①ウェットランドでのブッポウソウの巣箱用支柱の設置と巣箱かけ ②★ウェットランド団による環境学習 (笑湖楽校) ③周辺自治会との協力による苗づくりとウェットランドの植樹会(ドングリ、モミジ、実もの) ④ウェットランドのバス当歳魚の駆除 ⑤ウェットランドの広報活動 (ウェットランド団の今後の活動・体制等、ネットによるPR) ⑥ウェットランドの管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・コウノトリの住む環境作り ・環境センターの設立 ・紅葉林を多くする ・ウェットランドの予算獲得 ・人の手を入れない環境づくり ・ファンクラブ定期集会 ・ビオトープづくり

★ :リーディング(先行的・試行的)プロジェクトとして、分科会の協議を経て位置づけたもの
 青色:平成19~20年度で取り組みを実施したもの(引き続き実施する予定)
 紫色:取り組みを企画中または実行中のもの

全体の活動を 支える 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ①★情報発信・情報提供(ハイヅカ湖地域ビジョンWEB、情報BOXの設置) ②活動を支える人づくり(リーダーの育成) ③活動を支える組織・仕組みづくり ④既存の観光地や観光施設とのネットワークの創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・こだわりの図書館づくり ・「笑湖(ハイヅカ)祭」の当番開催 ・地域を守る「里守」の配置 ・温泉の開発
	地域活性化を支えるダム管理 <ul style="list-style-type: none"> ①防災の取り組み ②ハイヅカ湖の環境管理 	

(3) 取り組みメニューの実施手法(リーディングプロジェクトとして実施している取り組み)

大谷ルネッサンス(ガードレール・ペイントなどの地域の特色を活かした芸術活動)

ハイヅカ湖周辺は、アースワークの活動が展開されたこともあって、芸術作品が地域各所に点在するとともに、ガードレールについてもアースカラーで統一する取り組みが実施されました。しかし大谷地区は通常の白色ガードレールであるため、ガードレールをデザイン塗装し、一体としての景観づくりが望まれています。

そこで、大谷地区のガードレールのデザインに向けたワークショップを開催し、デザイン塗装を実施します。(H21.3 現在までに第4回WSまで開催済み)

【実施内容・実施方法】

(a) 芸術系の高校生や大学生等との協働によるデザイン企画・塗装

- ・芸術系の高校生や大学生等の参画を呼びかけ・募集し、若者たちと地域が一緒になって、配色やデザインの企画を作ります。
- ・若者たちと地域の参加によるガードレールのデザイン塗装を実施します。
- ・大谷地区の塗装後は、適宜、他の箇所についても計画・実施します。
- ・継続的な取り組みへと発展させるため、地域主体の実行組織をつくります。

(b) アースワーク作品の地域ガイド

- ・上記の取り組みと連携して、ハイヅカ湖周辺に点在するアースワーク作品について、地域でガイドし、高校生や大学生等と一緒に地域を見つめ直し、地域の魅力について考えます。
- ・アースワーク作品の地域ガイドを定着させ、ハイヅカ湖地域を訪れた方々に積極的にガイドし、地域の魅力をPRします。
- ・併せて、アースワーク作品のガイドブックを作ります。

実施年次	平成 20 年度～平成 22 年度	実施主体	実行委員会
実施手法	平成 20 年度 学生・地域への呼びかけ、デザインワークショップの開催 平成 21 年度 塗り替えの実施、アースワークの地域ガイド育成・試行 平成 22 年度 アースワークの地域ガイドの実施、その他の箇所の塗装		



第1回WS ガードレール現地視察(大谷植物園)



第3回WS 1:2スケールデザイン案の制作

ハイツカええと湖探し

ハイツカ湖周辺は、里山環境が広がっています。里山は地域の暮らしと密接した場所であるとともに、その環境には多くの動植物が生息・生育しています。しかし、地域の過疎化や少子高齢化が進行しており、里山の手入れ等の担い手が不足し、里山の荒廃が進んでいます。

そこで、まずはハイツカ湖地域の方々に失われつつある里山の魅力を伝えるために、ハイツカ湖地域の魅力を探しマップにする“ハイツカええと湖探し”を実施します。

【実施内容・実施方法】

(a) ハイツカええと湖探し

- ・「ハイツカええと湖探し」と称し、ハイツカ湖地域への参加を呼びかけつつ、ハイツカ湖周辺の魅力の収集をイベント形式で行います。収集にあたっては、湖面からの目線、夜や朝の景色、四季の変化など、時々に変わり行く姿をさまざまな切り口から捉えます。
- ・収集した情報は、マップとして整理し、ハイツカ湖地域に配布するとともに、ハイツカ湖地域を訪れる方々にも利用できるようにします。
- ・マップを活用し、今後は課題も同時に探し、里山環境を保全するためにできることを、分科会及び地域、関係機関等と協議して実施します。

実施年次	平成 20 年度～平成 21 年度	実施主体	第 2 分科会
実施手法	平成 20 年度 ハイツカええと湖マップの作成 平成 21 年度 里山環境の保全のための取り組み（分科会等の開催）		



「ええと湖探し」秋のお月見会



ハイツカ湖 ネイチャーマップ(原案)

空心菜の特産化に向けた取り組み

ハイヅカ湖地域には、当然ながら、広大なハイヅカ湖の水面が存在します。この貯水池を上手く活用して、地域の活性化や地域振興に結びつけようという目的で、中国野菜の「空心菜」の水耕栽培を実施します。空心菜は栄養価が高いとされ、また日本ではあまりなじみのない食材であるために、ブランド化も視野に入れて特産品化を検討します。さらに空心菜は栄養吸収力が強いとされており、ハイヅカ湖の水質保全への貢献も期待できます。

【実施内容・実施方法】

(a) 空心菜特産化委員会(仮称)の設置

- ・ 空心菜笑湖プラントの設置及び空心菜の試験栽培に向けた企画・アクションを推進する母体として、地域からの参画を募り、実行委員会（実行組織）を平成 21 年 1 月に設置しました。
- ・ 各自の得意分野を十全に活かせるよう、“生産”“企画”“研究”の3つのグループに分けてこの取り組みを推進していきます。

(b) 空心菜の試験栽培

- ・ 上記実行委員会にて、プラントの設置場所、規模、栽培方法、管理などについて協議し、具体的なプランを作成します。
- ・ 試験栽培プランに基づき、実行委員をはじめ、各主体の参画を促し、試験栽培を実施し、生育状況、商品価値（味、臭い、食感など）を検証します。

(c) 特産品化に向けた検討

- ・ ハイヅカ湖ならではの特産品化を目指すために、生産方法やレシピ、パッケージング(ネーミング等販促企画)、品質分析等の検討を行います。

実施年次	平成 20 年～平成 22 年度	実施主体	空心菜特産化実行委員会(仮称)
実施手法	平成 20 年度 空心菜特産化実行委員会(仮称)の設置及び企画会議の開催 平成 21 年度 空心菜の試験栽培 平成 22 年度 特産品化に向けた検討		



第3分科会 空心菜に関する企画会議



ペットボトルを活用した育苗のアイデア

「抱きしめて笑湖^エイツカ^コ」

ハイツカ湖地域をたくさんの方に知っていただくとともに、地域コミュニティの活性化を目的として、「抱きしめて笑湖^エイツカ^コ」を開催します。「抱きしめて笑湖^エイツカ^コ」とは、たくさんの方にハイツカ湖を訪れてもらい、ぐるっとハイツカ湖を囲もうというアイデアです。他の分科会にて企画中のイベント等との同時開催も視野に入れ、連携して取り組んでいきます。

ハイツカ湖を核にして、ハイツカ湖地域の連携、ハイツカ湖地域と他地域、さまざまな人とのネットワークを促進するとともに、このプロセスを通じて地域の成長が期待されます。また、開催後は、活動資金を基にハイツカ湖地域の活性化を目的とした NPO の設立を視野に入れていきます。

【実施内容・実施方法】

- (a) 「抱きしめて笑湖^エイツカ^コ」実行委員会の設置
 - ・「抱きしめて笑湖^エイツカ^コ」の進め方や企画、連絡調整などを行うため、有志による実行委員会（実行組織）を平成 20 年 12 月に設置しました。
- (b) 「抱きしめて笑湖^エイツカ^コ」実行委員会及びイベントの実施
 - ・上記、実行委員会にて、具体的な進め方などについて協議し、具体的なプランを作成します。
 - ・ハイツカ湖をぐるっと囲む本番に向けて、ハイツカ湖地域を PR し、取り組みを周知するために、イベントを定期的実施していきます。
- (c) 「抱きしめて笑湖^エイツカ^コ」の開催
 - ・上記プロセスを経て、2010 年 5 月 4 日(祝・みどりの日)を目標に、「抱きしめて笑湖^エイツカ^コ」を開催します。
- (d) 地域活性化 NPO の設立
 - ・開催後は、活動資金を基に、ハイツカ湖地域の活性化を目的とする NPO 団体の設立を目指します。

実施年次	平成 20 年度～平成 23 年度	実施主体	「抱きしめて笑湖 ^エ イツカ ^コ 」実行委員会
実施手法	平成 20 年度	「抱きしめて笑湖 ^エ イツカ ^コ 」実行委員会の設置及び委員会の開催	
	平成 21 年度	1 年前イベントの開催	
	平成 22 年度	「抱きしめて笑湖 ^エ イツカ ^コ 」の開催	
	平成 23 年度	ハイツカ湖地域の活性化を目的とした NPO 法人の設立	



実行委員会でのアイデア出しの様子



イベントの開催 H19 年みどりの日

健康・福祉のマップづくり

少子高齢化が進行するハイツカ湖地域においては、いきいきとした生活、活力あるコミュニティを維持していくためには、健康づくりが不可欠です。また、ハイツカ湖地域を支えていくための福祉も重要です。ハイツカ湖では、毎年「ハイツカ湖健康ウォーク」や「ハイツカ湖健康マラソン」などが開催され、地域の関心も高く、ウォーキングなどが盛んです。

ハイツカ湖を囲む道路は周回でき、また、ハイツカ湖のビューポイントがたくさんあることから、ハイツカ湖の景色を楽しみつつ、健康づくりに向けたウォーキング・マラソンマップを作成します。

【実施内容・実施方法】

(a) 健康・福祉マップの作成

- ・健康と福祉をテーマに、ハイツカ湖地域のお勧めウォーキングコースやマラソンコースなどをマップにします。
- ・マップには、単なるコースではなく、ハイツカ湖の見所などを掲載するとともに、距離+カロリー表示など、楽しく健康づくりに取り組めるような工夫を検討します。

(b) マップを活用した健康・福祉の取り組み

- ・福祉と健康マップを活用し、ハイツカ湖地域の方々が気軽に健康づくりに取り組むためのウォーキング企画、距離票の設置などを検討します。

実施年次	平成 20 年度～平成 21 年度	実施主体	第 5 分科会
実施手法	平成 20 年度 福祉と健康マップの作成 平成 21 年度 マップを活用した健康・福祉の取り組みの実施		



ウォーキングマップ(原案)



「ハイツカ湖健康ウォーク 2007」

ウェットランド団による環境学習(笑湖楽校)

ハイヅカ湖には、ダム湖の水質浄化と湿地環境の創出を目的としたウェットランドがあります。ウェットランドには、多様な生物が生息・生育しているとともに、自然環境を身近に学べる場所です。しかしながら、ハイヅカ湖地域をはじめ、周辺地域でもその存在がそれほど認知されていません。

ウェットランドが有する自然のポテンシャルを活用し、ハイヅカ湖を優れた環境学習の場として広く認識いただくために、ウェットランドの応援団である“ウェットランド団”による環境学習を実施していきます。

【実施内容・実施方法】

(a) ウェットランド団の募集及び勉強会の開催

- ・ウェットランド団は現在のところハイヅカ湖地域の有志により結成されていますが、今後も広く参加を呼びかけ、ウェットランド団の増員を図ります。
- ・ウェットランド団が環境学習や体験活動等で安全に楽しく指導できるよう、各種勉強会（動植物、指導法、安全管理等）を開催します。

(b) ウェットランド団による「ウェットランド笑湖楽校」の開催

- ・ウェットランド団による環境学習や体験活動を「ウェットランド笑湖楽校」と称して、年間を通じて、定期的に環境学習会や体験活動の機会を提供していきます。
- ・近隣の小学校、三次市・庄原市の中学校や高校に呼びかけ、定期的な観察会や環境保全活動等を展開していきます。

実施年次	平成 20 年度～平成 22 年度	実施主体	ウェットランド団、第 6 分科会
実施手法	平成 20 年度	ウェットランド団の結成及び勉強会の開催	
	平成 21 年度	ウェットランド笑湖楽校の実施	
	平成 22 年度	近隣の小学校や中学校、高校と連携した環境保全活動等の実施	



笑湖楽校での生きもの観察



笑湖楽校での鳥類勉強会

情報発信・情報提供(ハイツカ湖地域ビジョンWEB、情報BOX)

ハイツカ湖地域ビジョンの取り組みの一環として、平成 19 年度から「ハイツカ湖地域ビジョンWEB」を立ち上げ、インターネット上でビジョンの取り組みの紹介、活動の報告、イベントのお知らせやハイツカ湖地域の魅力発信などを行っています。

今後も継続してハイツカ湖地域のインターネットによる取り組み状況の共有、魅力発信などを行うとともに、各種協力者とのネットワークの構築に努めます。

【実施内容・実施方法】

(a) タイムリーで役立つ地域情報の発信

- ・地域で催される季節ごとの各種イベントなど、ハイツカ湖地域の魅力を随時発信します。

(b) 各種協力者とのネットワークの構築

- ・他の水源地域ビジョンを策定している地域と協力して、情報の共有やアイデア交流などを積極的に行います。
- ・取り組みに関心のある活動団体や知和ウェットランドの自然環境に関心のある教育・研究機関、歩こう会などとのネットワークを結び、ハイツカ湖地域の魅力をより多くの方に知ってもらうよう努めます。

(c) 情報BOXの設置

- ・ハイツカ湖地域の方々の意見、ハイツカ湖を訪れる方々の意見などを広く聴取するために、ハイツカ湖地域の各所にご意見箱となる情報BOXの設置を考えます。集められた情報は、「ハイツカ湖地域ビジョンWEB」に反映させるとともに、自治振興区連絡協議会やダム守同心、ビジョン事務局等で共有し、適切に活動に反映していきます。

実施年次	平成 21 年度～	実施主体	ハイツカ湖地域ビジョン事務局
実施手法	・ 地域情報の収集 ・ 地域情報の発信 ・ 各種関係機関等とのリンク ・ 情報BOXの設置		



ハイツカ湖地域ビジョン WEB のトップページ

(4)各取り組みメニューの実施手法(リーディングプロジェクト以外の取り組み)

1)大谷ルネッサンス(大谷の昔を楽しめる、学べる環境づくり)

大谷周辺の希少な環境的魅力や歴史を活かして、“振り返れば未来”をテーマに、電気・水道がなかった時代の大谷の暮らしぶりを楽しめる、学べる環境づくりに取り組みます。はじめのステップとして、この取り組みに関心のある方が集まり、現場でじっくり体験しながら話し合える、ささやかな東屋を建てます。将来的には、維持管理を兼ねた「里山の暮らし体験イベント」などを開催します。また、現在進行中の大谷ガードレールデザインペイントも含め、大谷を包括的に活かす取り組みを目指します。

2)地元の事(自然・文化・歴史・料理)を知る

ハイツカ湖地域で展開されたアースワーク等の芸術活動や地域の自然、地域の食などをテーマに、地域の方が地元のことを知る活動に取り組みます。またその中で、地域の自然や文化などを次世代に引き継ぐことに取り組みます。



自然観察ガイド養成講座



手前味噌づくり



灰塚大橋の欄干デザイン

3)日常的なエコ活動の実践

美しいハイツカ湖やハイツカ湖地域の里地・里山を保全するため、現在取り組んでいる廃油石けんづくりやこれらのエコ洗剤を使っの公共施設のトイレそうじなど、日常的なエコ活動に今後も継続して取り組みます。

4)外から人を呼び込むための仕掛けづくり

ハイツカ湖は、美しい湖面やシンボルとも言える噴水、また、湖面に見る鳥類など、四季折々の景色がゆったりと楽しめるため、地域の散策の場として多くの方に親しまれています。その魅力を他地域、都市部の人にPRし、より多くの方に訪れてもらえるよう、草刈りや清掃、植樹・花植などの活動を行うとともに、維持管理を兼ねた土地の使用権を条件付きで提供するなど、行政、ダム管理者とも協働して、アイデア提案、仕掛けづくりを行います。

5) 雑草・かずらなどの研究と活用、野の花(山野草)を輝かす

雑草やかずらなどを単なる邪魔者として扱うのではなく、活用できる一資源として、現在取り組んでいる刈り草・伐木のリサイクルを今後も推進し、活用方法を研究します。また、山野草を地域の大切な魅力として、「カタクリ祭り」や写真・絵手紙コンテストなどの催しや保全活動を今後も地域全体で盛り上げていきます。



刈り草を使った肥料づくり

6) 副ダムに堆積する土砂を活用した取り組み

灰塚ダムには2つの副ダム(知和堰堤、川井堰堤)があり、ハイツカ湖に流入する土砂や堆積物等を未然にせき止める役割があります。この副ダムに堆積する土砂等は、窒素、リン等の栄養分が豊富に含まれており、この土砂を活用し、また先述の5)と連携した肥料づくりなどを検討します。この肥料等はハイツカ湖地域の農地や花壇等に利用し、ハイツカ湖地域での物質循環を促進します。



知和堰堤

7) 蛍の里づくり

ハイツカ湖周辺の上下川や田総川、杉谷川などでは、5、6月頃にゲンジボタルやヒメボタルが乱舞する姿を見ることができます。また、せせらぎ水路などを活用して蛍の繁殖などを行っています。そこで、それぞれの河川や場所においてボタルの保全に取り組み、地域一体となって蛍の里をPRするとともに、ボタルが棲める環境を維持していくため、「3) 日常的なエコ活動の実践」と併せて取り組んでいきます。

8) 「里山の達人」になる、を発掘する、を育てる

ハイツカ湖地域はかつて、里山と共に暮らす生活を送っていましたが、現在となっては、当時の知恵や文化などが継承できなくなりつつあります。また、人手不足などによって里山の荒廃が顕著化しつつあります。そこで、里山の知恵や文化を学び、里山で遊び、里山を守る「里山の達人」に地域自らがなるとともに、若者や子どもたちに継承し、「里山の達人」を発掘する、育てる活動を行います。

9) 青空教室を開く

地域の方々や若者や子どもたちを対象として、一番おいしい野菜の食べ方や間伐材などを活用した木工作など、人と里地里山のつながりを再認識するための青空教室を開催します。開催にあたっては、前述の2)、5)、後述の17)と連携し、たくさんの方が楽しめる、学べる教室を検討します。さらに、将来的には、エコツーリズムを提供できる学校の設立を目指します。

）何時でも湖水面が見えるようにする

ハイヅカ湖の周回道路には、展望所や駐車場、また良好な湖畔景観を望めるスポットが多くあります。しかしながら、特に夏季には雑草が繁茂し、せっかくの景観を見えにくくしています。そこで、展望所や駐車場、また良好な眺望点付近について、除草・清掃を行い、何時でもハイヅカ湖が望めるようにします。



ハイヅカ湖の名所である噴水

11) こだわりの店や営みのPRと連携、「笑湖アーティスト市」の開催

ハイヅカ湖地域には、地元産小麦を使ったパン屋やこだわりのチーズ・ベーコン、また地域で芸術活動を行っている写真家や画家、ガラス工房など、個性的な店や営みが展開されています。これらの活動を地域でPR（応援）するとともに、連携して「笑湖アーティスト市」などの催し物を展開し、地域の魅力の一つへと育てていきます。



笑湖アーティスト市の様子

12) エコトイレの設置及びデザイン提案と周辺の整備(維持管理方法の話し合いを通じた地域活性化)

ハイヅカ湖は湖岸の延長が約30kmあります。各箇所には駐車場や展望所などが設置されていますが、トイレの数は十分とはいえません。そこで、維持管理が比較的容易なエコトイレを設置することを話し合い、そのデザインや周辺の整備などを検討します。また、エコトイレの設置や維持管理の方法（有料の利用システム）などを地域で話し合い、実践することによって、地域交流を促進し、地域の活性化を図ります。2010年5月4日の「抱きしめて笑湖ハイヅカ」開催までの設置完了を目指します。

13) パーク&グラウンドゴルフの促進

ハイヅカ湖地域では、パークゴルフ・グラウンドゴルフを楽しむ姿が多く見られます。高齢者・身障者の方などが健康維持や健康促進として楽しみながら取り組めるパークゴルフ・グラウンドゴルフについて、地域のイベント（ウォーキング大会等）時に各ゴルフ場の紹介チラシを配布するなどして、利用促進、啓発活動に取り組みます。



なかつくに公園でのパーク・ゴルフ

14) 老若男女・万人のための健康スポーツ企画

ハイヅカ湖の湖岸では、「ハイヅカ湖健康ウォーク」や「ハイヅカ湖健康マラソン」などのイベントが定期的で開催されており、また、遠方からも歩こう会などでハイヅカ湖が利用されています。そこで、ハイヅカ湖地域全体の高齢者・身障者の方などがより参加しやすい健康スポーツイベントを企画・提案します。



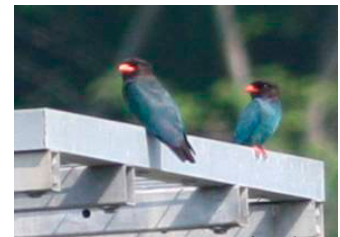
「ハイヅカ湖健康ウォーク 2007」

15) レンタサイクルの設置提案

ハイヅカ湖は、周回約 30kmあり、さまざまな景観や四季折々の景色を楽しむことができます。また、ほとんどの道路には歩道が設置されており、散歩やサイクリングなどにもってこいの場所と言えます。そこで、訪れた方々が気軽にハイヅカ湖を楽しめるとともに、健康づくりに貢献できるよう、レンタサイクルの設置を検討します。レンタサイクルは、通常の自転車に加え、子ども用、2人乗り用、障がい者用なども検討し、多くの方々が楽しめるように工夫します。

16) ウェットランドでのブッポウソウの巣箱用支柱の設置と巣箱かけ

ハイヅカ湖地域である安田地区では、巣箱かけなどブッポウソウの保護活動が取り組まれています。平成 20 年度には、ウェットランドにもブッポウソウの巣箱を設置し、繁殖が確認されています。そこで、さらにウェットランドに巣箱用の支柱を設置するとともに巣箱かけを行います。



ウェットランドに訪れたブッポウソウ

17) 周辺自治会との協力による苗づくりとウェットランドの植樹会

ウェットランドは、ハイヅカ湖に湿地環境を創出するために設置されました。現在では多様な生きものが生息・生育しており、徐々にではありますが、その数も増えつつあります。そこで、より良い環境づくりとして、樹木が少ないウェットランドに、周辺自治会と協力し、各家庭で植樹する木の苗（どんぐり等）を育ててもらい、植樹活動を行います。

18) ウェットランドのバス当歳魚の駆除

ウェットランドには多様な生物が生息しています。魚では、メダカやフナなど緩やかな場所を好む魚が多くいますが、現在、オオクチバス（ブラックバス）が徐々に勢力を拡大しており、在来種への影響が懸念されています。そこで、効果的に駆除するために、特にブラックバスの当歳魚（その年に生まれた魚）を対象に、駆除活動を行います。



駆除状況 ウェットランド

19) ウェットランドの広報活動

ウェットランドは、三次市・庄原市の総合的な学習などの学校活動で利用されている他、各種の活動で多くの方が来場されていますが、地域の認知度は、まだまだ向上させていく必要があります。そこで、ウェットランド団からの口コミや各種の活動などを通じて、より広域的に、多くの方に対して広報活動を行います。



RCC(中国放送)による取材

20) ウェットランドの管理

ウェットランド団を中心に、より多くの方に快適にウェットランドを利用してもらうために、駐車場や通路周辺などの清掃や草刈りを行います。また、ウェットランドそのものについても、関心者や取り組みに共感いただける方を募り、生きものを保全していくための取り組みを行います。

21) 活動を支える人づくり(リーダーの育成)

リーディングプロジェクト並びに前述の 1)～16)については、その取り組みを実際に実施する“人”が不可欠です。リーディングプロジェクトではその活動をOJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)として、リーダーの育成を図ります。また、地域ガイドの勉強会や環境学習の指導者養成講座等を適宜開催し、活動を支えていく人づくりを行います。さらには、この取り組みを通じて、リーダーの活躍の場の提供について、ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会等で検討します。



地域ガイド養成講座の様子



環境学習の指導者養成講座の様子

22) 活動を支える組織・仕組みづくり

将来的には、ビジョンにおける取り組みを支える母体としての組織が、継続的な活動の実施やその展開には不可欠となります。そこで、各種取り組みの機会を通じて、実行委員会形式の実行組織を設置するとともに、その発展形としてNPO法人の設立を検討します。

NPO法人は、活動の事務局機能や活動の窓口、予算管理などを行い、各種助成申請や各機関との調整などの役割を担います。

23) 既存の観光地や観光施設とのネットワークの創出

ハイツカ湖近郊には国営備北丘陵公園がある他、三次市・庄原市には県立みよし風土記の丘、奥田元宋・小由女美術館、三良坂ピオーネ、三次ワイナリー、帝釈峡など、多くの観光資源が点在します。これら観光地や観光施設と連携し、互いの情報交換を促進させるとともに、互いに来訪者に情報提供し合い、ネットワークの形成を図ります。

24) 防災の取り組み

洪水調節

灰塚ダムによって洪水調節を行い、下流地域の安全・安心な地域づくりに貢献します。また、ダム上流での大雨が原因でダム下流の河川水位が急激に上昇することが予想される場合には、放流警報サイレンを鳴らす等して、川を利用されている方の安全確保に貢献します。

必要な水量の確保

湯水で灰塚ダム下流でのかんがい用水、水道用水、魚の生息等、環境を保全するために必要な水量が不足する場合には、灰塚ダムから貯水池の水を補給して快適な地域づくりに貢献します。

その他の被害軽減

洪水で山から流された流木を貯留して、下流での被害を軽減します。

ダムの上流で油流出事故が発生した場合は、関係機関とも協力して回収する等して、下流などでの被害を軽減します。

25) ハイヅカ湖の環境管理

水質保全

- ・「知和ウェットランド」と「川井池」によって、ハイヅカ湖へ流入するアオコや濁りの原因となるものを削減します。
- ・曝気設備、噴水設備、ポンプ設備によって水を循環させる等してアオコの増殖を抑制します。
- ・湖の深いところの酸素不足を緩和することによって、魚等の生息環境を保全し、アオコの原因となるものの発生を抑制します。
- ・選択取水設備によって最適な水深から取水をして下流への放流水質保全に努めます。

動植物の保全

- ・「知和ウェットランド」をはじめ良好な動植物の生息基盤を維持するために、監視、維持作業を行います。
- ・関係機関等とも協力し、ハイヅカ湖の良好な自然環境に悪影響を与えるオオクチバスなどの外来種の対策に努めます。
- ・灰塚ダム知和管理棟を拠点として、動植物の保全活動や保全に関する情報の交換の促進を図ります。

安全で快適な利用環境の保全

- ・関係者と共に行うダム守同心活動とも連携し、監視等を行い、安全で快適な利用環境の保全に努めます。
- ・安全で快適な利用をするために地域の方々と決めた「利用の心得」が遵守されるように利用者の意識向上に努めます。
- ・ハイヅカ湖地域にお住まいの方・訪れる方により灰塚ダム・ハイヅカ湖を活用いただけるように努めます。

(5)実施スケジュール

ここでは、P7～8の取り組みメニューを対象に実施スケジュールを立案しています。

取り組みテーマ	取り組みメニュー	主な実施主体・支援・参加					
		分科会	地域	自治体	学校・教育機関	広域的な有志	ダム管理者
ハイヅカの きれいを味わう	①大谷ルネッサンス ・大谷の首を楽しめる、学べる環境づくり ・★ガードレール・ペイントなどの地域の特色を活かした 芸術活動(アースワーク等)	第1・4	◎	○	■	■	■
	②地元の事(自然・文化・歴史・料理)を知る	第1・4	◎	○			■
	③日常的なエコ活動の実践	第1・4	◎	○	■		○
	④外から人を呼び込むための仕掛けづくり	第1・4	◎	○			■
日本一の 里山づくり	①★ハイヅカ湖地域を知り、ビューポイントに名前をつける 「探湖会」、魅力を探す「ええと湖探し」の実施	第2	◎				■
	②雑草、かずらなどの活用・研究、野の花(山野草)を輝かす	第2	◎	○			■
	③副ダムに堆積する土砂を活用した取り組み	合同	◎	○		■	◎
	④蛍の里づくり	合同	◎	○	■	○(■)	■
	⑤「里山の達人」になる、を発掘する、を育てる	第2	◎	○	■	○(■)	○
	⑥青空教室を開く	第2、1・4	◎	○	■	○(■)	■
	⑦何時でも湖水面が見えるようにする	第2	◎	○		○(■)	◎
ぐるっと ハイヅカ	①★「抱きしめて笑湖ハイヅカ」の開催 ⇒地域活性化NPOの設立	「抱きしめて笑湖 ハイヅカ」実行委員会	◎	○		◎	○
	②★空心的菜の特産化に向けた取り組み	空心的菜特産化 委員会(仮称)	◎			○(■)	◎
	③こだわりのお店や営みのPRと連携、「笑湖アーティスト市」 の開催	合同	◎	○		◎	○
	④エコトイレの設置提案・維持管理方法についての話し合い を通じた地域活性化	合同	◎	○			○
健康・福祉の メッカ	①★健康・福祉のマップづくり	第5	◎	○			■
	②パーク&グラウンドゴルフの促進	第5	◎	○			○
	③老若男女・万人のための健康スポーツ企画	第5	○	○			○
	④エコトイレの設置提案と維持管理	合同	■	○			○
	⑤レンタサイクルの設置提案	第5	○	○		◎	○
里山の 自然博物館	①ウエットランドでのプッポウソウの巣箱用支柱の設置と巣箱 かけ	第6	◎	○	■		■
	②★ウエットランド団による環境学習(笑湖楽校)	第6	◎	○	■		■
	③周辺自治会との協力による苗づくりとウエットランドの植樹 会(ドングリ、モミジ、実もの)	第6	■	○	■		■
	④ウエットランドのバス当歳魚の駆除	第6	■	○	■		◎
	⑤ウエットランドの広報活動(ウエットランド団の今後の活動・ 体制等、ネットによるPR)	第6	■	○			◎
	⑥ウエットランドの管理	第6	■	○			◎
全体の活動を 支える取り組み	①★情報提供・情報発信 (ハイヅカ湖地域ビジョンWEB・情報BOX)	合同	◎	○	■	■	◎
	②活動を支える人づくり(リーダーの育成)	合同	◎	○	■	■	○
	③活動を支える組織・仕組みづくり	合同	■	◎	■	■	■
	④既存の観光地や観光施設とのネットワークの創出	合同	■	◎		○(■)	○
	①防災の取り組み	—	■	○	■		◎
	②ハイヅカ湖の環境管理	—	■	○	■		◎

★ :リーディング(先行的・試行的)プロジェクトとして、分科会の協議を経て位置づけたもの

青色:平成19～20年度で取り組みを実施したもの(引き続き実施する予定)

紫色:取り組みを企画中または実行中のもの

■ :参加

○ :支援

◎ :主な実施主体

(6) レビュー・モニタリング計画

ハイツカ湖地域ビジョンの実行においては、それぞれの取り組みの進捗やその評価及び課題・改善点を適宜チェックしながら、それぞれの取り組みにフィードバックすること及び定期的にモニターすることが重要です。このプロセスの中で、改善できるところは改善し、さらに新たな展開が必要な際は、改めて実施方針に則り進めていくことが肝要です。また場合によっては中止すべきものを検証する必要があるかも知れません。

このように、立てた計画(ハイツカ湖地域ビジョン)を適宜レビュー(見直し)・モニタリング、その取り組みや計画そのものを、スパイラルアップ(計画 実行 検証 改善 計画の見直し 実行・・・)によって、より良いものへ高めていきます。

1) レビュー・モニタリングの時期

ハイツカ湖地域ビジョン及びそれぞれ実施される取り組みについては、必要に応じて適宜、レビュー(検証・見直し)・モニタリングを行います。時期については、取り組み状況を確認しながら決定します。

2) レビュー・モニタリングの実施主体

ハイツカ湖地域ビジョンやその取り組みの見直し(レビュー)は、ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会において行います。ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会では、それぞれの取り組み状況を確認するとともに、それぞれの取り組みに対して支援・助言・協働します。また、必要に応じて計画の見直しや改善などの提案を行います。



ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会の様子

3) レビュー・モニタリングの実施手法

取り組み状況の確認

ハイツカ湖地域ビジョンの各取り組みにおいて、それぞれの実施主体から活動状況について、ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会に情報提供いただきます。特に、催し物やイベント、学習会等が開催される場合には、その情報を提供いただきます。

(報告：各実施主体、収集：ハイツカ湖地域ビジョン事務局)

ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会の開催

基本的には1年に1回、同委員会を開催し、それぞれの取り組み状況について提供いただいた情報を基に、ハイツカ湖地域ビジョンと照らし合わせ、同委員会からの支援・助言・協働について協議します。

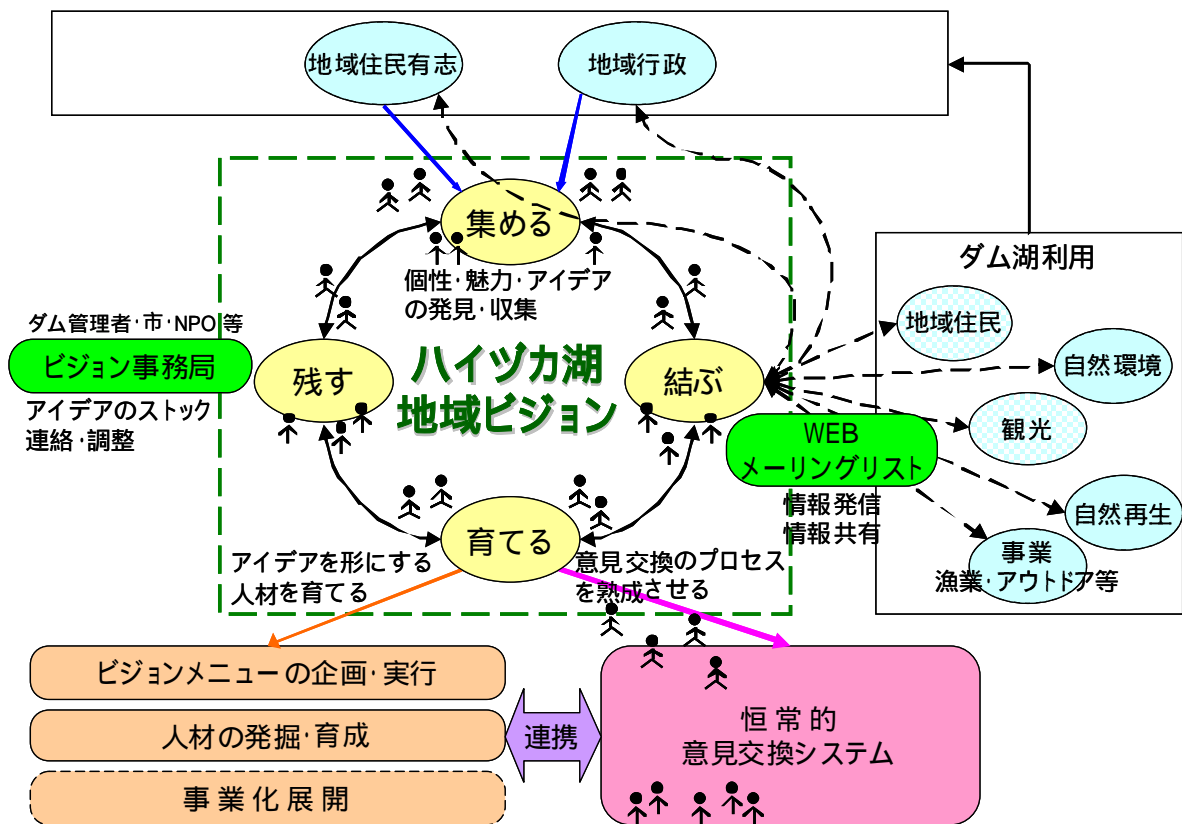
また定期開催とは別に、取り組みの各段階に応じて、同委員会を開催し、助言・改善・見直し等の提案を行います。

適切な情報共有

ハイツカ湖地域ビジョンの取り組み状況を共有し、誰からも意見や提案ができるように、ホームページでの情報提供を行います。

4) スパイラルアップのための仕組みづくり

ハイツカ湖地域ビジョンの推進にあたっては、上記のレビューが適切に実施され、また、改善策や提案が計画や実行に反映されるようにするために、スパイラルアップのための仕組みづくりを行います。



ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会 委員構成

敬称略

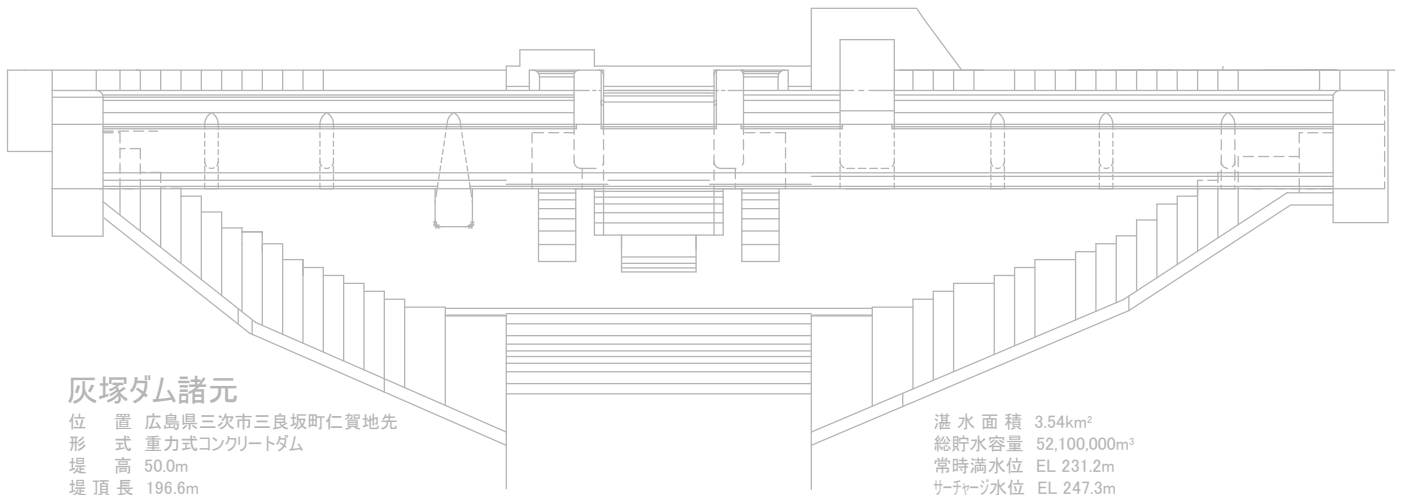
○ 中越 信和	有識者	広島大学大学院国際協力研究科 教授
立石 雅哉	ダム周辺自治会	仁賀振興会 会長
多留 正弘	ダム周辺自治会	安田自治振興会 会長
上垣 良三	ダム周辺自治会	安田自治振興会 会長
今井 秀明	ダム周辺自治会	のぞみが丘運営協議会 会長
和田 芳治	ダム周辺自治会	木屋地区自治振興区 区長
山根 京司	ダム周辺自治会	稲草西自治振興区 区長
前川 俊清	教育	県立広島大学 生命環境学部 准教授
金沢 成三	自然・教育	比婆科学教育振興会 会長
岩水 正志	自然	灰塚ダム知和ウェットランド 知和管理棟 管理責任者
熊原 保	福祉	社会福祉法人総領福祉会 理事長
湧田 法恵	行政機関	三次市 三良坂支所長
久保田 隆義	行政機関	三次市 吉舎支所長
淀 弘之	行政機関	三次市 吉舎支所長
永田 修治	行政機関	庄原市 総領支所長
春田 正治	行政機関	庄原市 総領支所長
島田 淳次	行政機関	国土交通省 中国地方整備局 三次河川国道事務所 所長
西村 元次	行政機関	国土交通省 中国地方整備局 三次河川国道事務所 所長

○委員長

ハイヅカ湖地域ビジョン分科会 構成

分科会	テーマ
第1・4分科会	【豊かな暮らしと文化・芸術】 生き活きたとした豊かな暮らし、趣味や文化・芸術等の共有ネットワークなど
第2分科会	【自然との共生】 ハイヅカ湖周辺の自然や里山環境と人との関わりなど
第3分科会	【地域活性化】 兼業農家の活性化、特産品や地域ブランド作り、イベント企画など
第5分科会	【健康・福祉】 ハイヅカ湖周辺施設等を利用した健康増進・福祉・スポーツなど
第6分科会	【ウェットランドと環境教育】 ウェットランドの環境保全と、ウェットランドを活用した環境教育や体験学習など

※地域の方々や関心のある有志の自由参加で、分科会を開催しています。分科会はどなたでも参加できます。



灰塚ダム諸元

位置 広島県三次市三良坂町仁賀地先
 形式 重力式コンクリートダム
 堤高 50.0m
 堤頂長 196.6m

湛水面積 3.54km²
 総貯水容量 52,100,000m³
 常時満水位 EL 231.2m
 サーチャージ水位 EL 247.3m



ハイツカ湖地域ビジョン

笑湖(エコ)ハイツカ

～人と自然が元気で笑顔があふれる湖域づくり～

平成21年9月

© 2009 Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

ハイツカ湖地域ビジョン事務局

(国土交通省 三次河川国道事務所 灰塚ダム管理支所内)

〒729-4302 広島県三次市三良坂町仁賀1575

Phone.0824-44-4360 Fax.0824-44-3544

ハイツカ湖地域ビジョンWEB <http://www.haizuka.net>